

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 熊西 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

熊西 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回っている。特に、話す・聞く能力、書く能力の基礎ができていた。 ・読む能力を問う問題にやや課題があり、読書や読解に力を入れる必要がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	手紙の書き方を理解して書く問題や、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	伝えたい事実を明確に書く問題と、古典の作品名を漢字で書く問題については、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率をわずかに下回っているものの、昨年度と同程度である。 ・効果的な資料を作成し、活用して話す問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	表現の工夫について自分の考えをもつ問題は、正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っており、特に数と式、数学的な技能についての力が不足している。 ・方程式を解く問題に課題があり、練習問題に取り組む時間を増やす必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	作図など、図形に関する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	方程式を解く場面における等式の性質の用い方についての問題は、正答率が特に低かった	

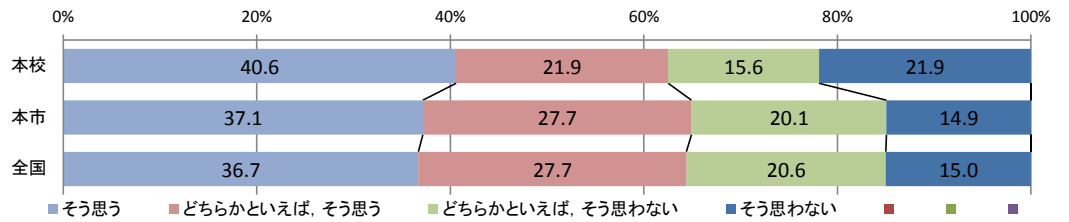
数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均をわずかに下回っており、無回答率が高い問題が多かった。応用問題に対しても、粘り強く取り組む姿勢を育てたい。 ・図形に関する問題は、正答率が高かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形に関する問題は、一般的に正答率が高かった	
	努力が必要な問題	発展的に考え、予想した事柄を説明する問題の正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、第1分野化学的領域や、第2分野生物的領域は、基礎ができていた。 ・第1分野物理的領域や、第2分野地学的領域に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	実験の結果を分析し、解釈する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	天気や、気象観測に関する問題は、正答率が低かった。また、記述式の問題は、無解答率が高かった。	

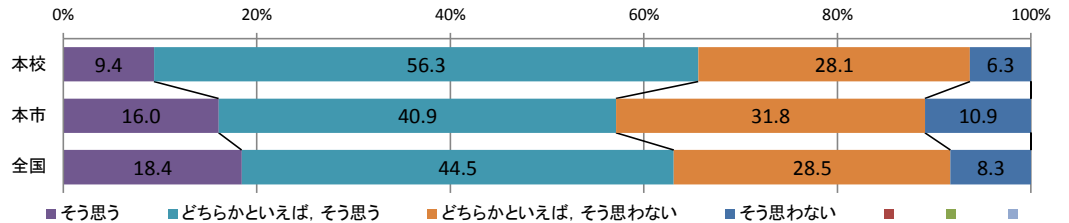
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

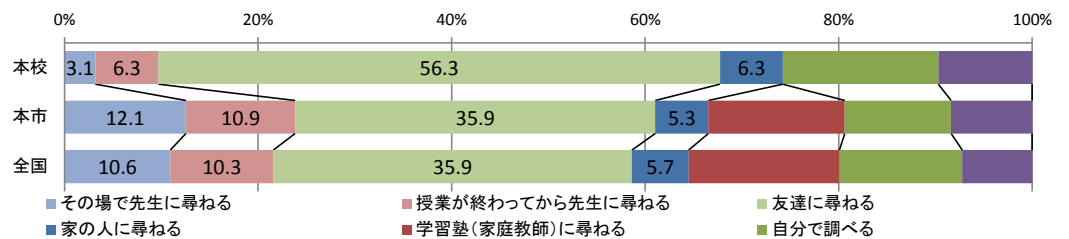
44
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。



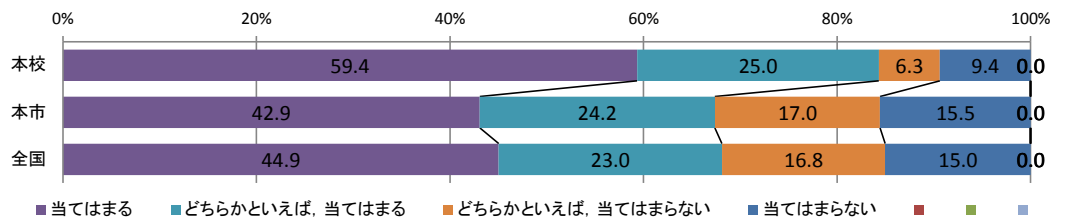
46
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



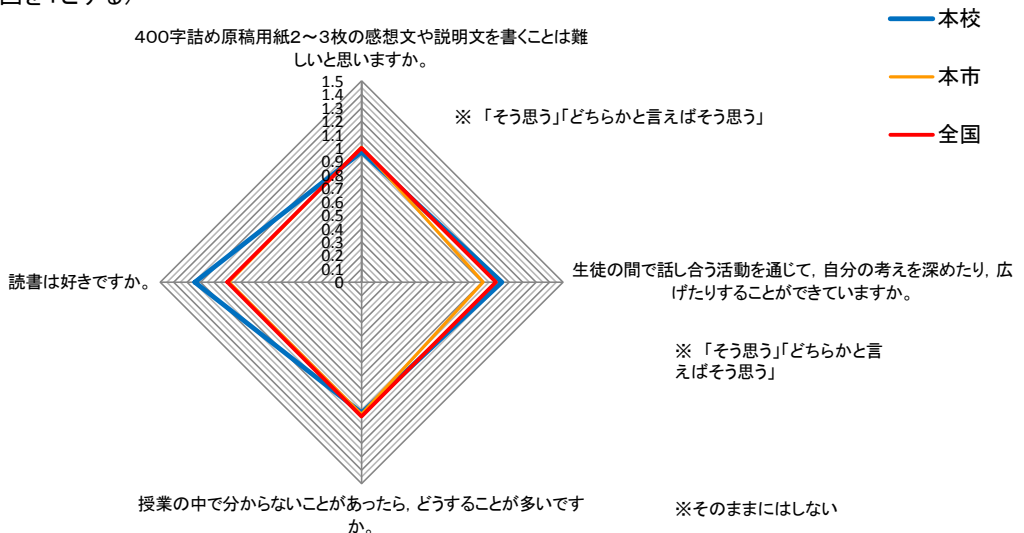
47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



51
読書は好きですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



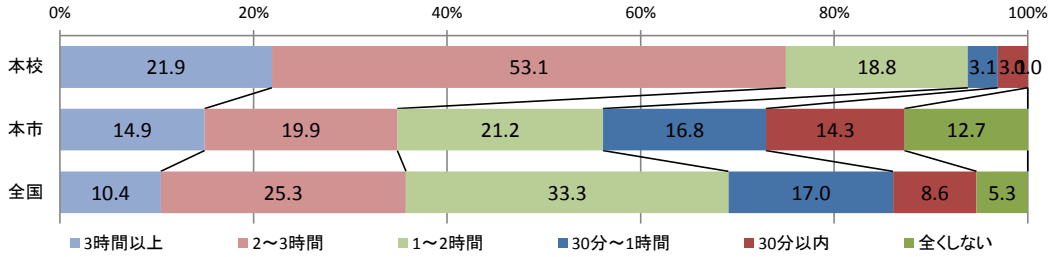
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・「読書が好き生徒」が約85%と、全国平均を大きく上回っている。全校一斉朝の10分間読書の成果と思われる。今後も充実させていきたい。
- ・話し合う活動の機会が与えられていると答えている生徒は、全国平均を上回っており、全校的に各教科での話し合い活動を重視している成果が出てきている。
- ・文章を書くことに抵抗感を持っている生徒は、昨年度と比べてやや減少しているものの、まだ多い。数学Bの言葉で説明する問題の正答率が低いことにも関連が深いと考えられる。どの教科においても、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返り(まとめ)を書く活動を位置付けたりして、書くことを授業にもっと取り入れていく必要がある。
- ・分からないところを教師に気軽に質問できる機会を増やす必要がある。

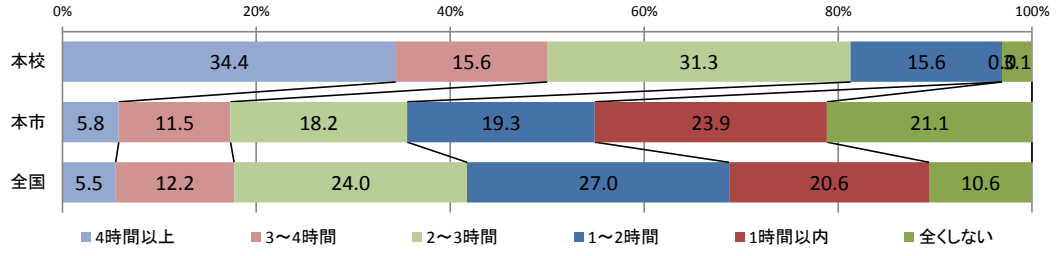
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

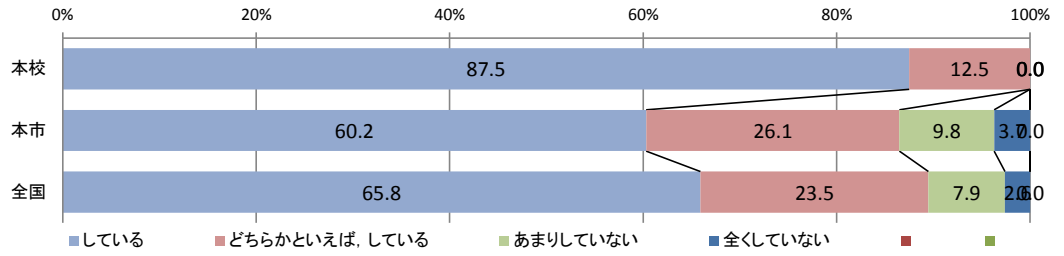
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



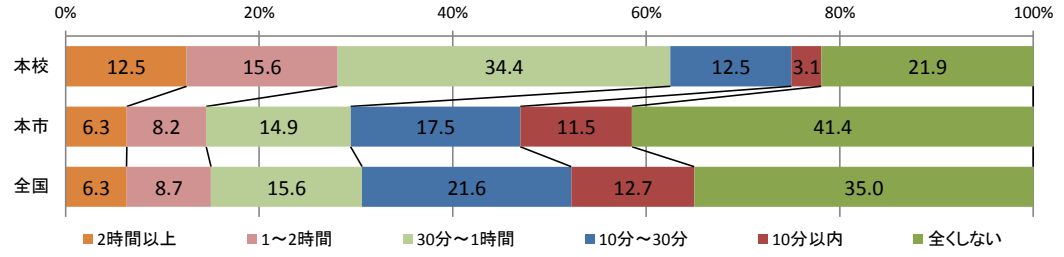
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



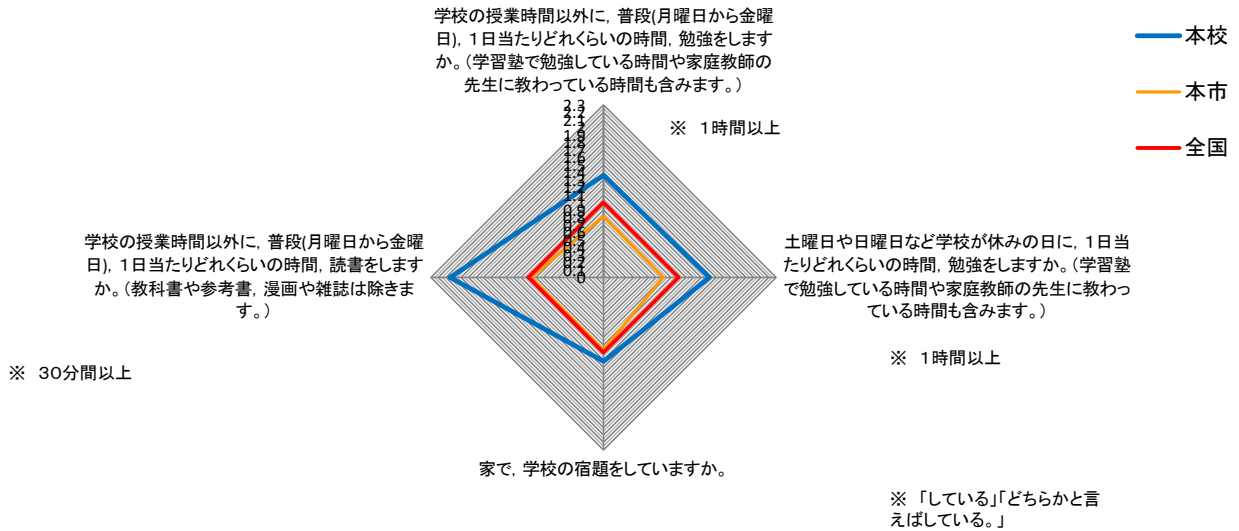
21
家で、学校の宿題をしていますか。



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)をしますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

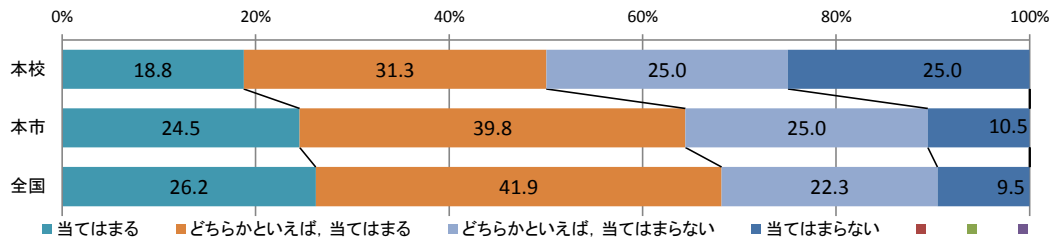


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

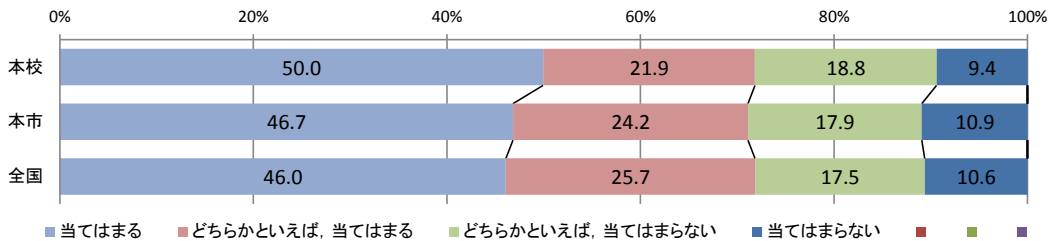
- ・家で、学校の宿題をしている生徒は、年々増えてきており、全国平均より高くなっている。
- ・家庭での学習時間も、年々増えてきており、宿題以外の家庭学習時間も多くなっている。今後も自主的な家庭学習の大切さを自覚させるとともに、家庭学習の効果的な取り組み方を指導する必要がある。
- ・家庭で普段30分以上読書をしている生徒の割合は、60%以上で、全国平均よりもかなり高い。今後も、家庭での読書習慣を定着させていく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

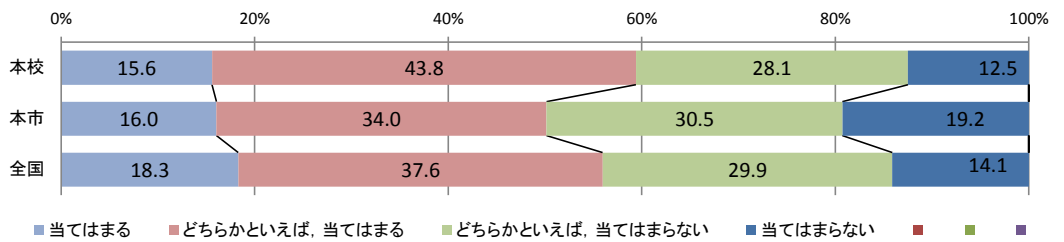
6
自分には、よいところがあると思いますか。



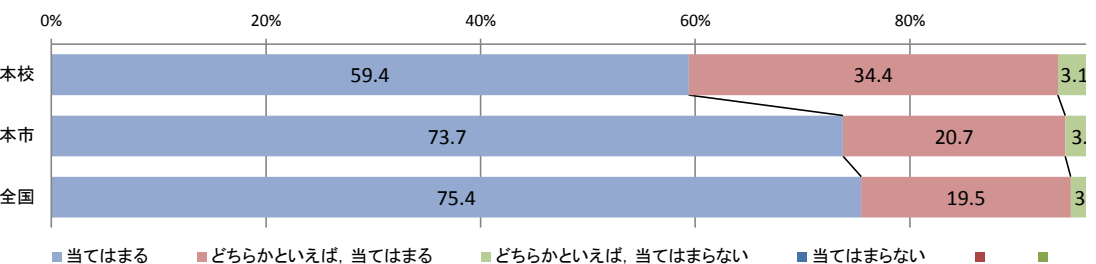
9
将来の夢や目標を持っていますか。



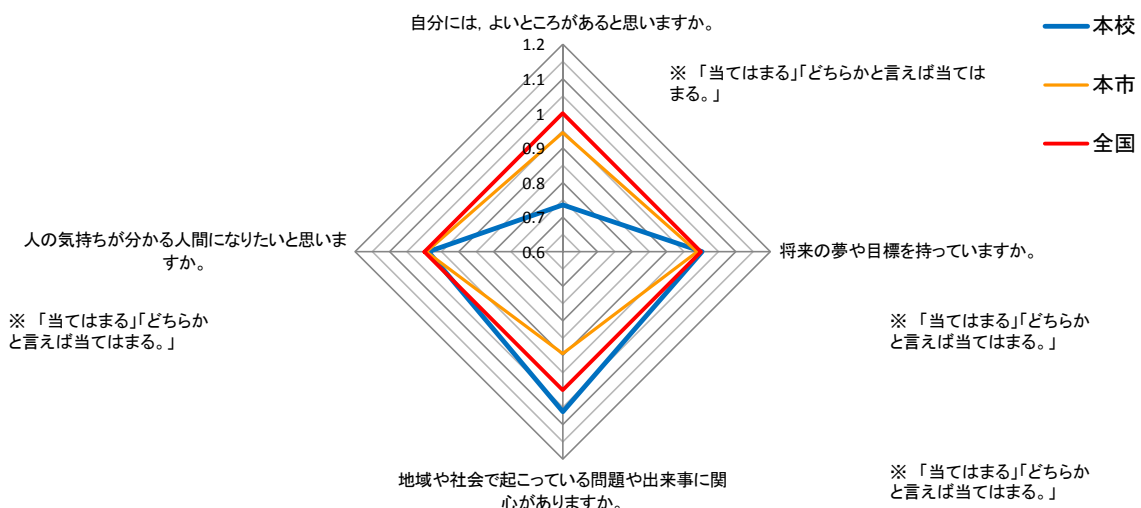
28
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



33
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・将来の夢や目標を持っている生徒が、昨年度より増え、全国平均とほぼ同程度である。立志式の実施の成果だといえる。今後も、キャリア教育や進路指導の充実を図っていきたい。

・「人の気持ちが分かる人間になりたい」と思う生徒は全国平均と同程度のものの、「自分にはよいところがある」と思う生徒が全国平均と比べて低かった。行事等のさまざまな取組を通して自尊感情や思いやりの心を育てていきたい。

・地域や社会で起こっていることへの関心が、年々高くなり、全国平均を上回っている。今後も授業で新聞を活用するなどして、地域や社会の一員としての自覚を高めさせていきたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上のための強化週間の実施
 - ・ 定期考査前1週間の予想問題づくりなど、朝自習の取組を実施する。
 - ・ 定期考査前1週間の放課後教室を実施し、教師への質問の機会を増やす。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・ アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎・基本の徹底を図る。
 - ・ アシストシートや過去問題を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 各学年フロアの自主学習コーナーを充実し、自学自習や質問をする機会を増やす。
- 「書くこと」の習慣化
 - ・ 授業のみならず、全校集会や生徒会活動など、あらゆる機会をとらえて、書く活動を取り入れる。
 - ・ 学習の最後、3分間を「まとめ(振り返り)」タイムとして、学んだことを自分の言葉で書けるようにする。
 - ・ 校内ノート展を通して、よいノートのまとめ方を理解させる。
 - ・ 生活ノートや学級日誌などに3行程度の「ミニ日記」を書くようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の定着に向けた取組
 - ・ 学年全体で宿題の内容や量の調整を行い、宿題の片寄りがないようにする。
 - ・ 定期考査1週間前は、ノーテレビ・ノーゲームにチャレンジさせる。
- 熊中ノートの活用など、自主学習の取組を推進する。
 - ・ 「熊中ノート(家庭学習チャレンジハンドブックを含む)」は、毎朝担任に提出し、日記は担任、自主学習は副任が点検する。
 - ・ 「熊中ノート」(自学ノート)の学年集会での各学期表彰、家庭学習マイスター賞への応募を奨励する。
- 家庭での「読書」の習慣化
 - ・ 各学年の推薦図書を選定し、読書冊数についての全校集会での表彰を位置づける。
 - ・ 「熊中ノート(家庭学習チャレンジハンドブックを含む)」(毎朝提出 副任の点検)や、読書ノートなどを活用する。
 - ・ 読書冊数や図書館貸し出し冊数等の全校集会での表彰、家庭学習マイスター賞への応募を奨励する。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 家庭教育学級やPTA理事会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携して協力体制を整える。